

○ 4つの合唱曲 Čtyři sbory Op.29 B.59 (作曲：1876年) より

詩：モラヴィア民俗詩 Moravská lidová poezie

曲：アントニン・ドヴォルザーク Antonín Dvořák (1841-1904)

3. Nepovím 私はそれを言わない

U studénky stála, napájela páva,
pověz mně, děvečko, sivá holubičko,
esli mia máš ráda.

A já ti nepovím, nebo sama nevím,
přiď k nám dnes večer,
až sa mamky zdovím, teprv já ti povím.

A já k vám přijedu na vraném koníčku,
a si ho uvážu na vašu jedličku, o bílu stužičku.

Ta naše jedlička přeblahoslavená,
za léta, za zimy, dycky je zelená.

娘は泉のほとりに立って、孔雀に水をやってた。

「言っておくれ、むすめさん、灰色の小鳩さん
僕を好きかどうか。」

「あたしには言えない、自分でも分からないの
今晚うちに来てよ
母さんに聞いてみるから、そしたら話してあげるわ。」

「それなら僕は行こう、黒い馬にまたがって
そして君の家の樅の木に、白いリボンで馬をつなごう。」

「うちの樅の木は、とても恵まれた木
夏も冬も、いつも青々としてる。」

4. Opuštěný 見捨てられた者

Dyž ty's mě nechtěla, mělas mně povědít,
mělas mě za sebou dvě leta nevodit.

Dvě leta nevodit, mělas mně dat zprávu,
mělas, mělas nesedávat na prahu.

Rokyta, rokyta, rokytový proutek,
ponesu pro tebe dvě leta zármutek.

Jedličko zelená, neopouštěj chvojí,
jak mě opustilo moje potěšení.

Jedličko zelená, neopouštěj vrška,
jak mě opustila má panenka hezká.

Dyž ty's mě nechtěla, mělas mně povědět,
že tvé černé oči nechcú na mě hledět.

A šak budu rády pohledávat po mně,
dyž se mně šablíčka po zemi potáhne.

僕を欲しくなかったのなら、言ってくればよかったのに
二年間も君のところに、通わせなければよかったのに。

二年間も通わせず、本当の事を言ってくればよかったのに。
玄関のところで立っていなきゃよかったのに。

柳の木よ、柳の小枝よ
お前のために、二年間の悲しみを背負うのだ。

緑の樅の木よ、針葉をつけた枝を見捨てるな
僕を捨てた、愛しいひとのように。

緑の樅の木よ、梢を見捨てるな
僕を捨てた、きれいなひとのように。

僕を欲しくなかったのなら、言ってくればよかったのに
お前の黒い瞳は、僕を探し求めてなどいなかったと。

だが僕を喜んで見つめるようになるさ、
サーベルを地面に引きずって歩くようになれば。
(将校になれば)

訳：青木 勇人

○コストレ シャンソン選

曲：ギョーム・コストレ Guillaume Costeley (1530-1606)

1. Allon, gay, gay, gay, Bergères さあ、ほら、ほら、羊飼いさんたち (出版：1570年)

Allon, gay, gay, Bergères,

Allon, gay,

Allon, gay, soyez légères

Suivez moy.

Allon, allon voir le Roy,

Qui du ciel en terre est nay,

Gay, gay.

(ルフラン)

Un beau présent luy feray, de quoy?

De ce flagollet que j'ay tant gay,

Gay, gay.

Un gasteau luy donneray,

Et moy, plain hanap luy offriray,

Gay, gay.

(ルフラン)

Ho, ho, Paix-la! je le voy;

Il tette bien sans le doigt,

Le petit Roy, Gay

(ルフラン)

Le Roy boit.

さあ、ほら、ほら、羊飼いさんたち、

さあ、さあ、

ほら、ほら、軽やかな足取りで、

私についていらっしやい。

さあ、みにいきましよう、

天からお生まれになった王様を、

さあ、ほら、ほら。

素敵なお贈り物を捧げましよう、

私がこの楽しい笛を吹いて、

ほら、ほら。

おいしいお菓子を差し上げましよう

そして、なみなみと注がれた大杯も。

ほら、ほら。

おお、おお、お静かに、王様が見えます、

指も使わずに上手にお乳を飲んでおられる

この幼い王様は。

王様は飲んでおられる。

} (ルフラン)

2. La terre les eaux va buvant 地は大水を吸い込み (出版：1570年)

詩：ピエール・ド・ロンサール Pierre de Ronsard (1524-1585)

La terre les eaux va buvant,

L'arbre les boit par sa racine,

La mer eparse boit le vent,

Et le soleil boit la marine.

Le soleil est bu de la lune,

Tout boit soit en haut ou en bas,

Suivant cette règle commune,

Pourquoi donc ne boirons nous pas?

地は大水を吸い込み

木は根でその水を汲む、

逆巻く海は風を受けとめ、

その海の水を太陽が吸い上げる。

太陽もまた、月に飲み込まれるからは、

上も下も、万物みなこれ飲ん兵衛ぞろい、

この定めに従えば、

なんで飲まずにいられよう？

3. Las! je n'yray plus, je n'yray pas もうそこでは遊ばない (出版：1570年)

Las! Je n'yray plus, je n'yray pas jöuer au boys.

Hier au matin m'y levay,

En notre jardin entray,

Las je n'yray plus, je n'yray pas,

Helas je n'yray plus jöuer au boys.

En notre jardin entray,

Trois fleurs d'amour j'y trouvay,

Las je n'yray plus, je n'yray pas,

Helas je n'yray plus jöuer au boys.

Trois fleurs d'amour j'y trouvay,

Une en prins, deux en laissay,

Las je n'yray plus, je n'yray pas,

Helas je n'yray plus jöuer au boys.

Une en prins, deux en laissay,

A mon amy l'envoyray,

Las je n'yray plus, je n'yray pas,

Helas je n'yray plus jöuer au boys.

A mon amy l'envoyray,

Qui sera joyeux et gay.

Las je n'yray plus, je n'yray pas,

Helas je n'yray plus jöuer au boys.

ああ、もう二度といきません、行きません、森には遊びに行きません。

昨日の朝、目が覚めて、

お庭に行ってみました。

ああ、もう二度といきません、行きません、

森には遊びに行きません。

お庭に行ってみました。

そこで愛の花を3輪みつけました。

ああ、もう二度といきません、行きません、

森には遊びに行きません。

そこで愛の花を3輪みつけました。

1 輪を摘んで、あとの2 輪はそのままに。

ああ、もう二度といきません、行きません、

森には遊びに行きません。

1 輪を摘んで、あとの2 輪はそのままに。

この1 輪は好きな人に送るのです。

ああ、もう二度といきません、行きません、

森には遊びに行きません。

この1 輪は好きな人に送るのです。

きっと喜んで楽しい気分になってくれるでしょう。

ああ、もう二度といきません、行きません、

森には遊びに行きません。

訳：小林 緑

○レルヒエンフェルス Te Deum 神なるあなたを私たちは讃え

曲：ヤン・シクト・ズ・レルヒエンフェルス Jan Sixt z Lerchenfelsu (1550-1629)

Tē deum laudāmus,
tē Dominum cōnfītēmur,
Tē aeternum Patrem omnis terra venerātur,
Tibi omnēs Angeli, tibi caeli et ūniversae
potestātēs,
tibi Cherūbim et Seraphīm incessābili vōce
prōclāmant.
Sanctus,
sanctus,
sanctus Dominus Deus Sabaōth.
Plēnī sunt caeli et terra mājestāte glōriae tuae.
Tē glōriōsus Apostolorum chōrus,
Tē Prophētārum laudābilis numerus,
Tē Martyrum candidātus laudat exercitus.
Tē per orbem terrārum sancta cōnfītētur Ecclēsia.
Patrem immēnsae mājestātis;
Venerandum tuum vērū et ūnicū Fīliū;
Sanctum quoque Paraclītum Spīritum.
Tū rēx glōriae, Christe!
Tū Patris sempiternus es Fīlius.
Tū ad liberandum susceptūrus hominem
Nōn horruistī Virginis uterum.
Tū dēvictō mortis aculeō,
Aperuistī crēdentibus rēgna caelōrum.
Tū ad dexteram Deī sedēs in glōriā Patris.
Jūdex crēderis esse ventūrus.
Tē ergō quaesumus, tuīs famulīs subvenī,
Quōs pretiōsō sanguine redēmistī.
Aeternā fac cum sanctīs tuīs in glōriā numerārī.

Salvum fac populum tuum, Domine, et benedīc
hērēditātī tuae.
Et rege eōs et extolle illōs ūsque in aeternum.
Per singulōs diēs benedīcimus tē.
Et laudāmus nōmen tuum in saeculum et in
saeculum saeculī.
Dīgnāre, Domine, diē istō sine peccātō nōs
cūstōdīre.
Miserēre nostrī, Domine, miserēre nostrī!
Fīat misericordia tua, Domine, super nōs,
Quem admodum spērāvimus in tē.
In tē, Domine, spērāvī: nōn cōfundar in aeternum.

神であるあなたをわれらは賞賛し、
主であるあなたに告白します、
永遠の父なる神であるあなたを地上のすべてのものが敬います。
すべての天使たち、天上と全世界の権力者たちが、
智天使ケルビムに熾天使セラフィムが、絶え間なく声高らかにあなた
に歌いかけます、
聖なるかな、
聖なるかな、
聖なるかな、万軍の神なる主、
天地はあなたの栄光による権威で満ちています、と。
輝かしい使徒たちの合唱、
預言者たちの賞賛すべき群れも、
潔い殉教者たちの一軍も、あなたを褒めたたえます。
全世界にあまねき聖なる教会はあなたを認めます。
計り知れない権威を持つ父と、
敬われるべきあなたの、まことのひとり息子と、
さらに慰め主である聖霊とを。
あなたこそは栄光の王、キリストよ！
あなたこそは父なる神の永遠の息子、
人類を救うことを引き受けようとし、
処女マリアの子宮に宿ることを厭わず、
死のとげに打ち勝ち、
信じる者に天国を開かれました。
あなたこそは父なる神の栄光のうちに神の右手にすわり、
審判者として世においてになると信じられるでしょう。
あなたのしもべたちをお救いください。
願わくは、貴い血でもって贖われた、
聖人たちとともに、われらを永遠の栄光のうちに数え入れてください。

主よ、あなたの民を救い、あなたの世継ぎを祝福し、
絶えず永遠に、彼らを正しく導き、そして高めてください。
われらは日々、あなたを祝福し、
世々限りなく、あなたの名を褒めたたえます。

主よ、今日われらが罪を犯さぬよう護ってください、
主よ、われらを憐れんでください！
われらの上に憐れみを垂れてください。
主よ、あなたにただすがり望んだ
主よ、私はあなたに望みました、永遠に心乱されませんようにと。

○トーマ Stabat Mater 悲しみの聖母

曲：フランティšek・イグナツ・アントニン・トーマ

František Ignác Antonín Tůma (1704-1774)

Stabat mater dolorosa,
Juxta crucem lacrimosa
dum pendebat Filius.

悲しみの母は立っていた、
十字架の傍らに、涙にくれ
御子が架けられているその間。

Cujus animam gementem,
contristatam et dolentem,
pertransivit gladius.

呻き、
悲しみ、歎くその魂を、
剣が貫いた。

O quam tristis et afflicta
fuit illa benedicta,
Mater unigeniti!

ああ、なんと悲しく、打ちのめされたことか
あれほどまでに祝福された、
神のひとり子の母が。

Quae maerebat et dolebat,
Pia Mater, dum videbat
Nati poenas incliti.

そして歎き、悲しんでいた、
慈悲深い御母は
その子が罰（十字架刑）を受けるのを目にしながら。

Quis est homo qui non fleret,
Christi matrem si videret
in tanto supplicio?

涙をこぼさないものがあるだろうか、
もし、キリストの母が
責め苦の中にあるのを見て。

Quis non posset contristari,
Piam Matrem contemplari
dolentem cum Filio?

悲しみを抱かないものがあるだろうか、
敬虔な母が
御子とともに歎いているのを見つめて。

Pro peccatis suae gentis
vidit Jesum in tormentis
et flagellis subditum.

その民の罪のために
イエスが拷問を受け
鞭打たれるのを（御母は）見た。

Vidit suum dulcem natum
moriendo desolatum,
dum emisit spiritum.

愛しい御子が
打ち捨てられて孤独に死に、
魂を手放すのを見た。

Eia, Mater, fons amoris
me sentire vim doloris
fac, ut tecum lugeam.

さあ、御母よ、愛の泉よ
私にもあなたの強い悲しみを感じさせ
あなたと共に悲しませてください。

Fac, ut ardeat cor meum
in amando Christum Deum,
ut sibi complaceam.

私の心を燃やしてください
神なるキリストへの愛で、
その御心にかなうように。

Sancta Mater, istud agas,
crucifixi fige plagas
cordi meo valide.

聖なる母よ、どうかお願いします、
十字架に架けられた（御子の）傷を
私の心に深く刻みつけてください。

Tui Nati vulnerati,
tam dignati pro me pati,
poenas mecum divide.

Fac me tecum pie flere,
Crucifixo condolere,
donec ego vixero.

Juxta Crucem tecum stare,
et me tibi sociare
in planctu desidero.

Virgo virginum praeclara,
mihi iam non sis amara,
fac me tecum plangere.

Fac, ut portem Christi mortem,
passionis fac consortem,
et plagas recolare.

Fac me plagis vulnerari,
fac me cruce inebriari,
et cruore Filii.

Flammis orci ne succen dar
per te, Virgo, fac defendar
in die iudicii.

Christe, cum sit hinc exire,
fac per Matrem me venire
ad palmam victoriae.

Quando corpus morietur,
fac, ut animae donetur
paradisi gloria. Amen.

あなたの子が傷つけられ、
ありがたくも私のために苦しんでくださった、
その罰〔苦しみ〕を私に分けてください。

あなたと共にまことに涙を流し、
十字架の苦しみを感じさせてください、
私の生のある限り。

十字架の傍らにあなたと共に立ち、
そして打ちのめされる苦しみを
あなたとともにすることを私は願います。

いと清き乙女のなかの乙女よ、
どうか私を退けずに、
あなたとともに歎かせてください。

どうかキリストの死を私に負わせ、
どうかその受難を共にさせ、
そしてその傷に思いを馳せさせてください。

どうかその傷を私に負わせてください、
どうか私に十字架を深く味わわせてください、
そして御子の血を。

怒りの火に燃やされることなきよう
あなたによって、乙女よ、守られますように
裁きの日には。

キリストよ、私がこの世を去る時には、
御母によって私を勝利の栄誉へ
至らしめてください。

肉体が減じる時には、
どうか魂に、栄光の天国を
与えてください。アーメン。